

【児童への話】

今日から9月に入りました。

9月は旧暦で、夜がだんだん長くなることから、長い月と書いて「長月（ながつき）」と呼ばれる月です。月を眺めながら歌を詠む時期であることから、「詠月（えいげつ）」とも呼ばれています。百人一首で素性法師（そせいほうし）の詠んだ歌、

「今来むと 言ひしばかりに 長月の 有明の月を 待ち出でつるかな」

が頭に浮かんできますね。今年の9月は中旬が過ぎるまで、まだまだ暑い日が続きそうです。熱中症や感染症の予防に努め、穏やかに過ごす月にしてください。

さて今日は、「防災と助け合い」についてお話しします。

今から102年前の今日9月1日、とても大きな地震が起こりました。関東大震災と言います。お昼時の地震発生だったので、大きな火災が起こり、東京や神奈川を中心に10万人以上の人々が犠牲になりました。幸い、皆さんの住むこの新宿では大きな火災は起こりませんでした。430人ほどの方が犠牲になったそうです。東京の中心部では半分以上の家や建物が壊れたり燃えたりしたので、生き残った人々はお寺や学校に避難して生活しました。でも、家以外にも必要な物は多く、被災した人々はとても困っていました。

すると、日本で大きな地震が起きたことを知り、アメリカ、イギリス、中国、インド、オーストラリア、カナダ、ドイツ、フランス、ベルギー、ペルー、メキシコなど、とても多くの国々からお金や服、治療に使う薬などがたくさん届けられました。国中で募金活動をしてお金を届けてくれた国や、「必要な物をもっと教えてください」と言ってくれた国もあったそうです。日本の人々は、外国の人々の優しさに驚き、深く感謝したと伝えられています。

今日9月1日は「防災の日」、9月1日を含む8月30日から9月5日は「防災週間」となっています。地震や火災、台風や大雨など、どのような災害がいつ襲ってくるか分かりません。皆さんは、毎月の避難訓練のように、まずは自分の身をしっかりと守れる人になってください。そして、「困ったときにはお互いさま」と考え、少しの優しさを、他の人に分けてあげてください。自分以外の人を大切にすることは、きっと、自分を守ることにもつながっていくことでしょう。

今日は、「防災と助け合い」についてお話ししました。

【本講話について】

本校では百人一首が盛んです。教室から、子どもたちからお気に入りの百人一首が自然と聞こえてくる、高尚な雰囲気がとても好きです。私の担任時代も学級の子どもたちと必ず取り組んでいましたが、小学校卒業後に中学校で古典の学習が始まってから、百人一首を覚えたことのありがたみを強く感じるそうです。子どもに知的な財産を与えることは大切なことです。

自然災害が起こることは防ぎようがないことです。防災週間をきっかけに、改めて自助・共助の意識を高め、安全に関する意識の高い子どもを育てていきます。